《太妹》君が好き*濁った幸せVer*《2011、バレンタイン》

天狼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

《太妹》君が好き＊濁った幸せＶｅｒ＊《２０１１、バレンタイン》

【Ｎコード】

Ｎ９２２６Ｑ

【作者名】

天狼

【あらすじ】

太妹のバレンタインでヤンデレＶｅｒです！

（前書き）

ヤンデレです；

２月１４日、バレンタインデー。
日本では専ら女子が好きな男子にチョコレートを贈る行事となっているこの日に、男である僕はいそいそとチョコレートを準備し思い人に贈ろうとしている。

しかも、僕の思い人は男だ。

「あー…創んなきゃ良かった……かな。」

女子間では友チョコとか言って気軽にチョコレートのやりとりをするようだが、男子間では殆ど無い。

「渡しにくいことこの上ないよ……」

僕は創ってしまったチョコレートを手に届けに行くか否か早一時間ほど悩んでいた。
玄関で靴を履いた状態のまま。

ハァ……

思わず出てしまったため息に更に気が落ちる。

渡したい。自分の気持ちをちゃんと伝えたい。
そう思う強い自分と

気持ち悪がられたらどうする？
と心配する弱い自分が居る。

「どうしよう……」

僕は暫く玄関をうろうろしていたが、自分の両頬をパシッと叩いた。

ウジウジしてたって仕方ないっじゃないか。案外あの人今日がバレンタインだって知らないかもしれないし！

「よしっ！」

僕は奮起して玄関を出た。

僕は太子に会うため法隆ぢ2に向かった。

太子の行動パターンは粗方理解しているからか、僕は殆ど探すことなく太子を見つけられる。

そこで僕は、見たくないモノを見てしまった。

「ありがとう！！」

太子が他の女からチョコを贈られていたのだ。

しかも、太子はすごく喜んでいる。

――僕の中の何かが壊れる音がした。

あの太子に本命チョコを渡す物好きはたぶん僕ぐらいだ。
あの女が渡したのは仮にも皇族である太子への賄賂のようなものだろう。
そうわかっていても、僕の中でくすぶりだしたこの気持ちは抑えられそうもない。
玄関で悩んでいた頃とは全く別人になったみたいに僕の気持ちに迷いはなかった。
僕はその女が去ってから太子へと歩み寄った。

「太子、良かったですね。」

振り返ると妹子が歩み寄ってきていた。

「あ…お芋。お前も私にチョコ渡しに来たのか？」
「そうですよ。」

冗談で言ったのにあっさり肯定されて戸惑う。

「えぇっ！？まじっすか！！」
「誰からも貰えないとかわいそうだと思って創ったんですけど、要らなくなりましたね。」
「そんなことないよ！！いるいる！」

私がそう言って妹子に手を伸ばした瞬間バシッと私の手は叩かれ、

さっき貰ったチョコを取り落としてしまった。

「あっ！」

慌てて拾おうとしたが、そのチョコは、
妹子に踏みつけられ、ガリッといやな音をたてた。

「あ……」
「僕のを受け取ってくださるなら、こんな汚いチョコは受け取らないでください。」

私は妹子を睨みつける。

「お前、何してくれてるんだよ！！このチョコは心を込めて「僕のとこれでは、込めてる心の種類が違うんですよ！！」
「っ！」

妹子の剣幕に気圧された。

「こんな物っ！こんな物っ！！こんな物ぉっ！！！」

妹子の足は踏みつけられたチョコに追い討ちをかけるように何度も何度も踏みつける。

暫くして落ち着いたのか踏みつけるのをやめた妹子は息があがっていた。

「い……妹子？」

妹子の様子は明らかに異常だった。

「太子……僕、太子が好きですよ。この世の誰よりも太子が大好きなんです……。太子も……僕を好きになってくれますよね？僕があなたの一番です……よね？」

濁りきった瞳から涙をポロポロ零し、妹子は私を見つめてくる。絞り出されたようなその声はまるで私に懇願するかのようで、聞いていて辛かった。

――妹子をこんなにしたのは私なんだ……、私が妹子を狂わせた……。

「ごめんな……妹子…。」

私はただ妹子を抱き締めた。

それから数日後私にチョコをくれた子が刃物で滅多刺しにされているのが発見された。

しかしそれも私にとっては然りとて関係の無いことだった。それよか、妹子の愛を感じられて嬉しいぐらいだった。

――嬉しいだって？

私は自分が感じた感情に戸惑う。人が殺されて嬉しいだなんて……。

そして、あぁ成る程。と思った。

――私が妹子を狂わせたように、きっと妹子も私を狂わせたんだ。

滅多刺しにされた女のことはわたしがそっともみ消すことにした。

（後書き）

楽しんでいただけたなら幸いです；

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9226q/

《太妹》君が好き*濁った幸せVer*《2011、バレンタイン》

2011年10月7日20時27分発行